

1 わたしたちの県のように

配当時間 全 10 時間
学習時期 4～5月 教科書 P.8～27

●小単元「1わたしたちの県のように」のねらい

本小単元について、我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、県の様子をとらえ、地理的環境の特色を考え、表現することを通して、自分たちの県の地理的環境の概要、47都道府県の名称と位置を理解することができる。

小単元「1わたしたちの県のように」について

本単元の導入では、衛星写真や中国地方の地図を用いて岡山県の位置を説明する活動から始まる。岡山県内の様子をはっきりしないことから学習問題をもち、土地の様子、土地の使われ方、交通の広がり、特産物や産業を調べていく。各時間で調べた内容は、単元終末で白地図にまとめる活動を設定している。出来上がった白地図をもとに、岡山県の特色を考え、話し合う活動を通して、岡山県の地理的環境の概要をとらえることができるように構成している。

小単元「1わたしたちの県」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	4月	日本の47都道府県を旅してみよう ②	・春休みに出かけた場所で見聞した、都道府県の文化財や祭り、食べ物、工業製品などの特色を話し合い、47都道府県の位置や名前を調べ、地図に書くことができる。	【主体的】 都道府県の文化財や祭り、食べ物、工業製品などを話し合い、意欲的に47都道府県の位置や名前を調べ、地図に書きこんでいる。
			大単元の導入 ①	・日本の都道府県と自分たちが住んでいる岡山県（都・道・府）に関心をもち、岡山県（都・道・府）の特色について調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 日本の都道府県名について話し合うことにより、自分たちの住んでいる岡山県（都・道・府）に関心をもち、その特色を調べようとしている。
			岡山県について調べる ①	・岡山県の地図を見ながら、県や市について関心をもち、県の様子にかかわる学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	【主体的】 岡山県の地図を調べることにより、県や市について関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てている。
			岡山県の土地のようす ①	・鳥瞰図や地形図をもとに、自分たちが住んでいる岡山県（都・道・府）の地形の様子を調べて、その特色を考えることができる。	【思・判・表】 地形の高低を岡山県の北部・中央部・南部という視点で比較し、その特色を考え、適切に表現している。
			岡山県の土地の使われ方 ①	・土地利用図と写真をもとに、自分たちが住んでいる岡山県（都・道・府）の土地利用の様子を調べ、その特色を考えることができる。	【思・判・表】 土地利用の様子と地形とを関連づけて、山地・高原・平野という視点で土地利用の特色を考え、適切に表現している。
			岡山県の交通の広がり ①	・岡山県（都・道・府）の道路や鉄道などの交通の様子と主な都市の位置について調べ、県内の交通と主な都市の位置について関わりを考えることができる。	【思・判・表】 岡山県内の交通の様子と人口の分布とを関連づけて、交通の広がりについて考え、適切に表現している。
		5月	岡山県の特産物や産業 ①	・岡山県（都・道・府）の主な特産物や産業の様子について、パンフレットなどの資料をもとに調べ、県全体に見られる主な産業の概要や分布の特色を理解することができる。	【知・技】 岡山県（都・道・府）全体に見られる主な産業の概要や分布を理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などを調べ、白地図などにまとめ、自分たちの県の地理的環境の概要を理解している。
- ▶思考・判断・表現 ……我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、問いを見だし、地理的環境の特色について考え表現している。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……都道府県の様子について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

前期	1学期	5月	白地図にまとめる ②	・岡山県（都・道・府）の特色について、白地図にまとめ、学習問題について考えたことを話し合うことができる。	【思・判・表】 これまでの学習を振り返り、岡山県の特色について、白地図に表現している。
----	-----	----	------------	--	--

1 ごみのしよりと活用

配当時間 全 14 時間
学習時期 5～6月 教科書 P.30～53

小単元「1 ごみのしよりと活用」のねらい

ごみの処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめ、廃棄物の処理のための事業の様子をとらえ、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができる。

小単元「1 ごみのしよりと活用」について

家庭や地域のごみステーション、清掃工場などのごみ処理施設を調べることを通して、ごみが衛生的に処理されていることや資源として有効利用されていること、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解させる展開としている。終末では、ごみを処理する事業は、県・市・地域が協力して行っていること、地域社会の一員として、一人ひとりがごみを減らす意識をもつことが大切であることに気づかせ、自分たちができることは何かを考え、自分たちの考えを深め合う活動を展開している。

小単元「1 ごみのしよりと活用」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	5月	大単元の導入 ①	・わたしたちの生活のなかで、水や電気の確保やごみの処理等が、健康な日々を送るために関わりがあることに気づき、人々の健康なくらしを支える仕事を学習していこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 自分たちの健康なくらしや生活環境を守るごみ処理、水や電気の確保について関心をもち、人々の健康なくらしを支える仕事について、意欲的に調べようとしている。
			自分たちの出すごみ ①	・テレビで見たごみや家庭から出るごみについて調べ、ごみの出し方などを話し合うことにより、ごみ処理に対する関心を高めることができる。	【主体的】 自分たちのくらしから出るごみについて関心をもち、意欲的に調べたり、話し合ったりしている。
			大分市のごみ ①	・大分市のごみの種類や量、出し方について話し合うことにより、ごみの処理について、学習問題をつくり、予想したり、学習計画を立てたりすることができる。	【主体的】 大分市のごみの種類や量、出し方について調べ、ごみの処理について、学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。
			ごみステーションのようす ②	・ごみステーションの様子を調べたり、ごみ収集をしている人などから話を聞いたりすることで、ごみの収集方法や、そこに携わる人々の苦労や工夫について理解することができる。	【知・技】 ごみ収集車のごみ収集の様子の観察や仕事に携わる人の話から、収集する人の苦労や工夫について理解している。
			ごみのゆくえ ②	・集められたごみがどのように処理されるのか、清掃工場の話をもとに調べ、協力してごみの処理を行っていることに気づき、表現することができる。	【思・判・表】 図やグラフ、係の人の話から、ごみ処理の工夫を考え、自分の言葉で表現している。
			清掃工場の見学 ②	・清掃工場で行われている作業を調べることを通して、燃えるごみが適正に処理されていることや、清掃工場働く人の工夫や努力を理解することができる。	【知・技】 燃えるごみが適正に処理されていることについて、清掃工場働く人の工夫や努力を理解し、まとめている。
		6月			

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……ごみを処理する事業が、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう協力して進められていること、また、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを、見学・調査や各種資料などの活用を図り、理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……ごみの処理の仕組みや再利用、県内外のごみの処理に携わる人々の苦労や工夫・協力に着目して、ごみの処理のための事業の様子をとらえ、その事業が果たす役割について、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……ごみの処理とその活用について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、地域社会の一員としてごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。

前期	1学期	6月	学習内容	評価規準	
			もえないごみのゆくえ ①	・リサイクルプラザの見学などから、処理の様々な工夫を調べ、二つのごみ処理施設の見学からわかったことや考えたことを話し合うことができる。	【思・判・表】 二つのごみ処理施設からわかったことや考えたことを、適切にノートにまとめ、話し合っている。
			もやしたごみのゆくえ ①	・うめ立て場の働きや問題点を調べ、わかったことをカードにまとめ、学習問題について話し合い、さらに考えたい問題を考えることができる。	【思・判・表】 うめ立て場の働きや問題点を調べ、わかったことや考えたことを適切にカードなどに表現している。
			ごみ問題に取り組む ①	・大分県の取り組みを調べることを通して、ごみを減らす工夫やうめ立て場を長く使う工夫について、県や市、地域が協力していることを理解することができる。	【知・技】 大分県が行っているごみの減量やうめ立て場の延命の取り組みや、県や市、地域が協力していることを理解し、適切にまとめている。
			ごみをへらすために ②	・これまでの学習を振り返り、自分にもできるごみを減らす取り組みを考え、発表し、質問や感想を話し合ったりして、自分の意見を見直し、深め合うことができる。	【主体的】 二人の発表を聞き、質問や感想を述べ、深め合い、自分にもできるごみを減らす取り組みを考えている。

2 暮らしをささえる水

配当時間 全12時間
学習時期 6~7月
教科書 P.54~77

小単元「2暮らしをささえる水」のねらい

供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめ、飲料水の供給のための事業の様子をとらえ、それらの事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解することができる。

小単元「2暮らしをささえる水」について

飲料水は安全で安定的に供給できるように進められていることや、人々の健康な生活の向上と維持に役立っていることを理解させ、飲料水は水源から様々な施設を経由して送られてくることを資料から読み取らせたり、浄水場を見学したりしながら調べる展開としている。

また、学習問題を振り返り、水と森林の関係を調べたり、限られた水を大切に使うために自分にできることを考えたりしながら、自分たちの考えを深め合う活動を展開している。

小単元「2暮らしをささえる水」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	6月	くらしにかかせない水 ①	・家庭や学校生活のなかで、大量に水を使用していることから、くらしに欠かせない身近な水道に関心をもつことができる。	【主体的】 家庭や学校生活での水の使い方を調べ、くらしに欠かせない水を大量に使用していることから、身近な水道に関心をもとうとしている。
			大阪府の人々をささえる水 ①	・大阪府の水の使い方や給水量について話し合い、わたしたちが使う水がどこからくるのかについて、学習問題をつくり、予想を出し合い学習計画を立てることができる。	【主体的】 大阪府に住む人々が使う水の量の変化の様子から、水道について、学習問題をつくり予想を話し合い、学習計画を立てようとしている。
			使う水はどこから ①	・家庭や学校で使われている水は、水源からダムや浄水場、配水池などの施設を経由して送られてくることを、絵地図や写真から読み取り、浄水場の見学の計画を立てることができる。	【主体的】 家庭や学校で使われている水は浄水場から届けられていることを絵地図や写真から読み取り、浄水場の働きについて、見学への意欲を高めている。
			水道水をつくるじょう水場 ②	・浄水場では、人々が飲料水を安心して、必要な量をいつでも使えるように高度な技術を活用した仕組みがつけられていることや、働いている人の願いと工夫についても理解することができる。	【知・技】 安心して使える水をつくる浄水場の仕組みや、そこで働く人々の願いや工夫について理解している。
		7月	安全・安心な水をつくって送る ①	・浄水場で働く人々は、安全・安心な飲料水を、関係機関と連携しながら確実に家庭や学校へ送るために様々な工夫や努力をしていることについて理解することができる。	【知・技】 安全・安心な飲料水を、確実に家庭や学校へ送るための浄水場で働く人々の工夫や努力を理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解するとともに、見学・調査をしたり、資料を調べたりして、まとめる技能を身につけている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……地域に届けられる供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力に着目して、飲料水の供給のための事業の様子をとらえ、それらの果たす役割を考え、文章で記述したり、図表などにまとめたことを話し合ったりしている。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……人々の健康や生活を支える事業について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、水を大切な資源としてとらえ、節水等に向けて自分たちが協力できることなどを考えようとしている。

前期	1学期	7月	学習問題について考えをまとめよう ②	・これまでの学習問題を振り返り、学習問題についての自分の考えをノートにまとめ話し合い、かけがえのない安心・安全な水について考えを深め、さらに考えたい問題を考えることができる。	【思・判・表】 学習問題について、自分の考えをまとめ話し合うことにより、安心・安全なかけがえのない水について考えを深めている。
前期	1学期	7月	毎日水が使えること ①	・地震などで安全な水が使えなくなることや、琵琶湖や天野川で自分たちが行っていることを調べ話し合うことができる。	【知・技】 安全な水が使えなくなった時の写真や、琵琶湖や天野川の奉仕活動の写真から、安全な水の大切さを理解している。
			水源を守るために ①	・水と森林との関係について調べ、限りある水を守るためには森林環境を守っていくことが大切であることを理解し、大阪府の給水量のうつり変わりのグラフから給水量が減ってきていることを読み取ることができる。	【知・技】 「緑のダムのしくみ」や「水のじゅんかん」の図を活用して、水を守るためには、森林環境の保全が重要であることを理解している。
			カードにまとめる ②	・限られた水を大切に使うために、節水や水の再利用について、自分にできることを考えたり判断したりして、水の大切さをうたえるカードをつくり、聞くことを大切にしながら深め合いをして、自分の意見を見直し、深めることができる。	【思・判・表】 大阪府の給水量のうつり変わりのグラフから給水量が減ってきているわけを調べ、限られた水を大切に使うために自分にできることを考えたり判断したりして、カードなどに表現している。

1 自然災害から命を守る

配当時間 全 12 時間
学習時期 9～10月 教科書 P.80～117

小単元「1 自然災害から命を守る」のねらい

過去に発生した東京都の自然災害や関係機関の協力などに着目して、自然災害から人々を守る活動について、聞き取り調査をしたり、地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。

小単元「1 自然災害から命を守る」について

小単元では、自然災害発生時の「対処」と発生する前の「備え」を追究する。まず、東京都各地の「水を流す」「水をためる」「地面にしみこませる」「自然の力で防ぐ」の4つの観点で「水害を防ぐ備え」を追究する。

次に、災害発生時の対処について、国や東京都、区や町会他関係諸機関の働きや情報を役立てる工夫について調べる。最後に、防災訓練など「災害時の対処のための取り組み」を通して、「災害に備えて自分たちができること」などを考えることができるようにしていきたい。

小単元「1 自然災害から命を守る」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	2学期	9月	大単元の導入 ①	・過去に起こった災害が大きな被害を与えていることから、自然災害に関心を持ち、東京都で起こった自然災害について調べていこうとする意欲をもつことができる。	【主体的】 東京都で過去に発生した自然災害を調べ、風水害について問いをもち、追究する意欲をもっている。
			風水害のことを知ろう ①	・東京都をおそった自然災害のうち、風水害の被害が多いことに気づき、災害時の対処や被害にあわれた人の話から、風水害について、学習問題を考え、詳しく調べようとする意欲を高めることができる。	【主体的】 東京都をおそった自然災害のうち風水害の被害が多いことや、災害時の対処を調べ、地域の風水害について詳しく調べようとする意欲を高めている。
			風水害について調べる ②	・風水害で被害に合わなかった場所や学校の近くを流れる妙正寺川を見学したり、風水害の様子を調べたりすることで、風水害を防ぐ工夫や努力について学習問題を考え、予想し、学習計画を立てることができる。	【主体的】 自分たちの学校の近くにある風水害が起こったことのある妙正寺川などを見学することを通して、学習問題を考え、予想し、学習計画を立てることができる。
			風水害を防ぐしせつを調べる ①	・風水害を防ぐための東京都の施設を調べ、風水害を防ぐためにつくられた地下調節池の働きについて理解することができる。	【知・技】 風水害を防ぐ地下調節池の役割を、施設を管理する人の話から理解している。
			風水害がおきたら ①	・2019年の台風19号を例に、市役所や消防署、警察署の人々の取り組みを調べ、自然災害が起きたときには、人々の命を守るために、多くの人々の働きがあることを理解することができる。	【知・技】 市役所や消防署、警察署の人の話から、自然災害が起きたときには、人々の命を守るために、多くの人々の働きがあることを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……自然災害に対し、関係諸機関や地域の人々が協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解し、調査や資料から調べ、まとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……過去に発生した東京都の自然災害や、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きについて考えたことを適切に表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……自然災害に対する対処や備えを主体的に追究するとともに、地域で起こりうる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりしようとしている。

前期	9月	情報を役だてる ①	・気象庁や東京都、地方公共団体などから出される防災情報について調べ、どのように役立てていくのかについて考えることができる。	【思・判・表】 気象庁や東京都などの地方公共団体から出される防災情報について調べ、どのように役立てていくのかについて考えている。
後期	2学期 10月	風水害にそなえるたいさく ①	・災害にそなえる避難所運営訓練の取り組みを調べたり、地域の防災部長さんの話を聞いたりして、学校が避難所に指定されていることが多いことに気づくことができる。	【思・判・表】 東京都や杉並区、地域の防災組織での災害に備える取り組みについて調べ、どのように参加していくのかについて考えている。
		風水害から人々の命を守る ①	・これまでの学習を振り返り、風水害対策の関係図をつくり、学習したことを防災部長さんへの手紙に書き、学習問題についての自分の考えをワークシートにまとめるとともに、さらに考えたい問題を考えることができる。	【知・技】 災害対策基本法をもとに取り組みされている東京都の風水害に関する災害対策について関係図をつくり理解し、学習問題についての自分の意見をもとに新たな問いを考えている。
		災害のときに自分たちの安全を守るために ①	・防災館で風水害の体験をしたり、話を聞いたりして、自分たちの安全を守るためにすべきことを理解し、自分たちにできることを考えることができる。	【知・技】 風水害の体験をしたり、話を聞いたりして、自分たちの安全を守るためにすべきことを理解している。
		自分の考えを深めよう ②	・自分の考えをスライドにまとめ、発表し、相手の意見をよく聞き、みんな、確かめ・質問・感想を話し合い、深め合うことができる。	【思・判・表】 二人の発表や話し手の意見をよく聞き、自分の意見を見直し、自分の考えを深めている。

1 自然災害から命を守る（続き）

配当時間 全12時間
学習時期 9～10月
教科書 P.80～117

小単元「1 自然災害から命を守る」のねらい

過去に発生した東京都の自然災害や関係機関の協力などに着目して、自然災害から人々を守る活動について、聞き取り調査をしたり、地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。

小単元「1 自然災害から命を守る」について

小単元では、自然災害発生時の「対処」と発生する前の「備え」を追究する。まず、東京都各地の「水を流す」「水をためる」「地面にしみこませる」「自然の力で防ぐ」の4つの観点で「水害を防ぐ備え」を追究する。

次に、災害発生時の対処について、国や東京都、区や町会他関係諸機関の働きや情報を役立てる工夫について調べる。最後に、防災訓練など「災害時の対処のための取り組み」を通して、「災害に備えて自分たちができること」などを考えることができるようにしていきたい。

せんたく 地震による災害 (P.100～105)

二学期制	三学期制	月	小見出し	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）
前期	2学期	9月	阪神・淡路大震災	・阪神・淡路大震災での人々のくらしの様子を調べ、学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てて、被害に合った人々のくらしを守る取り組みを意欲的に調べることができる。	【主体的】 地震が起きた後の人々の困難なくらしや、それを守る取り組みについて意欲的に調べている。
		9月	復旧から復興へ	・阪神・淡路大震災発生後の市町村の復旧や復興への取り組みを調べるとともに、日ごろから防災意識を高めることの大切さに気づくことができる。	【思・判・表】 阪神・淡路大震災発生後の市町村の対応を調べるとともに、日ごろから防災意識を高めることの大切さに気づいている。
後期		10月	地震にそなえて	・大きな地震への備えについて、本やインターネットで調べたり、防災福祉コミュニティの話を読んだりして、正しい情報を受け取ることや自分たちの地域は自分たちで守る意識が必要であることに気づくことができる。	【思・判・表】 正しい情報を受け取ることや自分たちの地域は自分たちで守る意識が必要であることに気づいている。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……自然災害に対し、関係諸機関や地域の人々が協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解し、調査や資料から調べ、まとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……過去に発生した東京都の自然災害や、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動をとらえ、その働きについて考えたことを適切に表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……自然災害に対する対処や備えを主体的に追究するとともに、地域で起こりうる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりしようとしている。

せんたく 津波による災害 (P.106～111)

二学期制	三学期制	月	小見出し	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）
前期	2学期	9月	津波のこわさを知る	・東日本大震災のことをきっかけに、津波について知っていることを出し合い、資料を読み取ることから、南海トラフ巨大地震や津波について関心をもつことができる。	【主体的】 南海トラフ巨大地震で予想される被害の状況から、国や都道府県・市町村の取り組みや先人の働きについて関心を持ち、本単元の学習の見通しをもっている。
		9月	「稲むらの火」	・津波の対策を通して、浜口梧陵のしてきたことを調べ、話し合うなかで、浜口梧陵の人物像について考え、自分の考えを適切に表現することができる。	【思・判・表】 調べたことから、浜口梧陵の働きや苦心、後世の人たちに託そうとしたものを考え、それに対する自分の考えを適切に表現している。
後期		10月	県の取り組み	・県の防災担当の人の話などをもとに、県が進める津波対策について調べ、津波に対して県がどのような対策をしているかや、自分たちがどんな備えをすればよいかについて考え、理解することができる。	【知識・技能】 県が進める津波対策について調べ、津波に対して県がどのような対策をしているかや、自分たちがどんな備えをすればよいかについて考え、理解している。

1 わたしたちのまちに伝わるもの

配当時間 全9時間
学習時期 10～11月 教科書 P.120～133

小単元「1 わたしたちのまちに伝わるもの」のねらい

長崎くんちを事例として取り上げ、祭りにこめられた人々の願いや祭りを支えている地域の人々の苦労や努力に着目して、県内に残る文化財や年中行事には、多くの人々の願いや思いがこめられていることを理解させる。また、文化財や年中行事の保存・継承には大きな課題があり、それらを解決するために、現在も地域の人々が努力や工夫を続けていることを理解することができる。

小単元「1 わたしたちのまちに伝わるもの」について

小単元の導入は、県を代表する文化財や年中行事に目を向ける。そして、博物館や資料館の見学、写真や映像などの資料を活用して学ぶ学習を展開する。また、伝統を受け継いでいる方々に子どもが聞き取り調査をするなかで、地域にいることを誇りに思い、地域を愛する子どもを育てることをめざす。

この学習で重要なことは、子どもたちも受け継いでいく地域の一員であるとの自覚を高めることである。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……市や町に伝わる文化財や年中行事について、見学活動やインタビューを通して調べ、祭りに関わる人々の心情や祭りを残すためには課題があること等を理解することができる。
- ▶思考・判断・表現 ……市や町に伝わる文化財や年中行事について、学習問題を考え、根拠のある予想を立てることができる。そして、調べ学習を通して学習問題の答えを導き出すとともに、新たな課題を見出し、その解決策を考えることができる。また、自分が調べたり考えたりしたことをわかりやすく表現することができる。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……市や町に伝わる文化財や年中行事について、見学活動やインタビュー等を意欲的にを行い、積極的に学習問題をとらえようとしている。解決に向けても意欲的に追究し、学習を的確に振り返ることができる。また、新たな課題についても真剣に考えることができる。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント(評価規準)
後期	2学期	10月	大単元の導入 ①	・県内の古くから残る祭りなどの年中行事や建物、地域の発展に尽くした先人について、知っていることや教科書の写真資料などを活用して調べ、調べる意欲と関心をもつことができる。	【主体的】 地域の歴史や文化、産業などの発展に尽くした人々の働きに関心をもとうとしている。
			まちに伝わるもの ①	・祭りなどの年中行事を展示している博物館や資料館を見学し、学芸員の話や聞くなどして、長崎県(都・道・府)内の祭りに関して興味・関心を高めることができる。	【主体的】 博物館や資料館を見学し、学芸員の話や聞くなどして、長崎県(都・道・府)内の祭りに関して興味・関心を高め、意欲的に調べようとしている。
			くんちについて調べる ①	・興味をもった長崎くんちについてもっと知りたいという思いから、その祭りに関わる情報を集めて学習問題を考え、予想や学習計画を立てることができる。	【知・技】 興味をもった祭りに関する情報を集め、時期や練習の仕方、道具などについての確に読み取り、学習問題を考え、予想や学習計画を立てている。
			くんちをささえる人々 ②	・祭りに関わる人たちに、どのような思いをもっているかをたずねることを通して、祭りに参加する人たちの気持ちを理解することができる。	【知・技】 祭りに対する気持ちや苦労などを読み取り、メモに簡潔にまとめたり、自分が調べたいことを書き足したりしている。
	11月	くんちにかける思い ①	・祭りに関わっている人たちにはどのような思いがあるのか、電話の内容などから読み取るとともに、これまで調べてきたことと合わせて、新たな課題を見出すことができる。	【思・判・表】 祭りに関わる人たちの思いと、これまで調べてきたことを合わせて考え、新たな課題を見出すとともに、自分なりにその課題を表現している。	
		問題の解決に向けて ②	・新たな課題に関する取り組みを調べ、今、自分にできることを考えたり、友だちの意見を聞いたりして、祭りに対する興味・関心を高めることができる。	【主体的】 新たな課題に対して真摯に向き合い、解決策を考えることを通して、伝統芸能に対する関心・意欲を高めている。	

後期	2学期	11月	昔の建物を調べる ①	・長崎県内の観光マップやこれに関連する写真を調べ、県内には古い建物が多く残されていることに気づき、その取り組みを調べることができる。	【思・判・表】 長崎県内には古い建造物があることに気づくとともに、古い建物を残すためにされている取り組みをまとめている。

2 原野に水を引く

配当時間 全 12 時間
 学習時期 11～12月 教科書 P.134～167

小単元「2原野に水を引く」のねらい

当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学や調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表や紙芝居などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例をとらえ、先人の働きを考え、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力、工夫により当時の生活の向上に貢献したことを理解することができる。

小単元「2原野に水を引く」について

大導入では、県内の先人として、那須野原の開こんに尽くした矢板武を取り上げている。那須野原の開こんの導入として、昔の那須野原の鳥瞰図などの資料をもとに、学習問題をつくり、学習計画を立てさせる。那須疏水の諸施設を見学し、当時の人々の願い（飲料水の不足）をかなえるため、矢板などが国や県へ陳情し、国から工事費を獲得して那須疏水の工事を完成させたこと、ずい道・ふせこし・用水路工事の工夫や苦心があったことなどを追究させる。最後に、疏水完成後の様子や現代の様子をとらえ、最後に、学習問題について話し合い、紙芝居にまとめる構成にしている。

小単元「2原野に水を引く」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2学期	11月	那須疏水 ①	・那須野原の鳥瞰図を見て、1890年ごろの土地の様子や、疏水の施設について調べ、気づいたことや疑問に思ったことを話し合うことができる。	【思・判・表】 那須野原の鳥瞰図を見て、気づいたことや疑問に思ったことを想像し話し合っている。
			原野の開こんと水への大きな願い ①	・那須野原の原野の開墾や人々が水不足で苦勞してきたことについて、絵図や写真資料などで調べ、学習問題を考え、予想を話し合うことができる。	【主体的】 自らの学習問題やクラスの学習問題をもとに、調べたいことや調べ方について学習計画を立てようとしている。
			那須疏水のしせつ見学 ②	・取水口や蛇尾川のふせこしなどの施設を見学し、施設周辺の土地や蛇尾川の様子を観察して、水もちのよくない那須野原の特徴を理解することができる。	【知・技】 取水口や蛇尾川のふせこしの石組みなど、那須疏水の施設を見学するとともに、施設周辺の土地や蛇尾川の様子を観察している。
		12月	印南や矢板の願いと国や県へのうったえ ②	・印南と矢板が中心となり、飲み水用の水路の計画と開削をし、その後、新しく水田に活用する水路の計画を国に認めさせたことを、本文や年表などから読み取ることができる。	【知・技】 印南と矢板の二人が中心となり、飲み水用の水路の計画と開削、そして、新しく水田に活用する水路の計画を国に認めさせたことを理解している。
			ずい道工事のくふう ①	・那須疏水の施設の工事について、苦勞や工夫を予想し、ずい道工事の苦勞や工夫について、想像図や地図などの資料を活用し、調べることができる。	【知・技】 那須疏水の施設の一つであるずい道工事について、想像図や地図などの資料を活用し、苦勞や工夫を調べている。
			川底を通すふせこしと用水路の工事 ①	・ふせこしや用水路の工事の苦勞や工夫について、断面図や想像図、写真などを調べ、工事の工夫等を理解することができる。	【知・技】 那須疏水の施設であるふせこしや用水路の工事の苦勞や工夫について読み取り、理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。また、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめている。
- ▶ **思考・判断・表現** ……当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例をとらえ、先人の働きを考え、表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……地域の発展に尽くした先人の働きに関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究したことをもとに、地域の歴史的背景について関心を深め、地域社会に対する誇りと愛情をもち、その発展を願っている。

後期	2学期	12月	那須疏水とくらしの変化 ①	・那須疏水ができてからの那須野原の人々のくらしの様子について、土地利用図や関係する人の話、グラフ資料などで調べ、那須野原の土地の様子や人々のくらしの変化の様子を考察することができる。	【知・技】 那須地方の土地利用図やグラフ資料などを調べ、那須疏水ができてからの那須野原の人々のくらしの変化について理解している。
			国の総合開発 ①	・那須野原全体の水問題はどのようになったかを予想し、国の総合開発について調べて、深山ダムなどの建設が行われ那須疏水の改修が進んだことを理解し、まとめることができる。	【知・技】 那須疏水の北部の開発から、深山ダムの建設により用水がいきわたり、牧草地などが増えていることに気づき、用水を利用する地域が多くなったことを理解している。
			学習問題の話し合いと紙しばいづくり ②	・今までの学習を振り返り、学習問題について自分の考えをまとめ、深め合い、紙しばいにまとめることができる。	【思・判・表】 友だちの意見のよいところを聞き、自分の考えを見直し、話し合い深め合っている。

1 伝統的な工業がさかんな地いき 配当時間 全7時間 教科書 P.170～179
学習時期 1月

小単元「1 伝統的な工業がさかんな地いき」のねらい

伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係に着目して、地図帳や各種資料で調べ、白地図などにまとめていく。地域の様子をとらえ、それらの特色を考え、表現することを通して、伝統産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解することができる。

小単元「1 伝統的な工業がさかんな地いき」について

小単元導入では、焼き物づくりがさかんな備前市について関心を高め、学習問題を考え、学習計画を立てる。次に、備前焼をつくる人の工夫や願い、備前焼のすばらしさを広めるために市全体が協力して備前焼を守り、生かす取り組みをしていることを調べる。最後に、学習問題を振り返り、備前焼をつくる人や、市、地域の人の取り組みについて、発表し合う展開としている。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……備前市では、作家・市役所・地域の人が協力して、備前焼を守り、生かす取り組みをすることで、備前焼づくりがさかんなまちづくりをしていることを、地図や各種資料で調べまとめることで、理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……備前市の位置や自然環境、備前焼の歴史、作家・市役所・地域の人々の協力関係などに着目して、備前市の様子についてとらえ、備前市で備前焼がさかんな理由について考えたり、調べたことや考えたことを表現したりしている。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……備前市で備前焼づくりがさかんな理由について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、同じ県に住む人として備前市の取り組みに誇りをもち、これからの町づくりを考えようとしている。

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント (評価規準)
後期	3学期	1月	大単元の導入 ①	・自分たちが住んでいる岡山県(都・道・府)の特色に関心をもち、学習の見通しをもつことができる。	【主体的】 自分たちの住んでいる岡山県の特色に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
			焼き物がさかんな備前市 ①	・備前焼がさかんにつくられている地域の写真や地図を活用して調べ、焼き物づくりがさかんな備前市について理解し、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【主体的】 会館の人の話を調べ、焼き物づくりがさかんな備前市について理解し、学習問題を考え、学習計画を立てている。
			備前焼ができるまで ②	・備前焼の生産工程の写真や伊勢崎淳さんの話から、備前焼をつくる人の工夫や願いを調べ、備前焼をつくる人は昔から受け継いできた技術を生かして作品をつくり、新しい備前焼をつくる努力をしていることを理解することができる。	【知・技】 備前焼をつくる人は、昔から受け継いできた技術を生かして作品をつくらせていることを理解している。
			備前焼を守る ①	・備前焼のすばらしさを広めるために、備前焼をつくる人や備前市役所の取り組みの意図を考え話し合うことを通して、備前焼のすばらしさを広めるために市全体が協力して備前焼を守り、生かす取り組みをしていることを理解することができる。	【知・技】 備前焼のすばらしさを広めるために、備前市全体が協力して備前焼を守り、生かす取り組みをしていることを理解している。
			備前焼をまちづくりに生かす ②	・備前市の観光客を増やす取り組みを調べ、学習問題を想起しながら、備前焼をつくる人や、市、地域の人の取り組みについて、自分の考えを発表し合うことができる。	【思・判・表】 備前市の観光客を増やす取り組みについて調べ、学習問題をもとに、これまでの学習を振り返るとともに、自分の考えをさらに深めている。

2 土地の特色を生かした地いき

配当時間 全6時間
学習時期 2月 教科書 P.180～191

小単元「2土地の特色を生かした地いき」のねらい

市の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめることを通して、真庭市では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解することができる。

小単元「2土地の特色を生かした地いき」について

本単元の導入では、真庭市の豊かな自然をとらえ、学習問題を設定している。

まず、北部の蒜山高原のジャージー牛乳や高原野菜の生産、自然を生かして観光産業を進める取り組みについて学習する。次に、南部の森林を守り生かす取り組みについて学習する。

最後に、真庭市が取り組むSDGsの考え方を大切にしたいまちづくりについて考え、図にまとめる活動を取り入れている。

小単元の観点別評価規準

- ▶知識・技能 ……真庭市の人々が、豊かな自然を守り生かす暮らしをめざして、協力して観光や特産品づくり、林業を行っていることを理解するとともに、パンフレット等の資料やインタビューから調べたことを適切にまとめている。
- ▶思考・判断・表現 ……真庭市の人々の自然を生かしたり守ったりする取り組みに着目し、取り組みの意味や効果について考えるとともに、資料から調べたことや考えたことを表現している。
- ▶主体的に学習に取り組む態度 ……真庭市の人々が豊かな自然を生かす取り組みを調べるとい学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、これからのまちづくりについて考えようとしている。

小単元「2土地の特色を生かした地いき」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3学期	2月	ゆたかな自然が広がる真庭市 ①	・真庭市の気温や降雨量の自然的環境について話し合い、真庭市の自然環境や産業に関心を持ち、学習問題を考え、予想や学習計画を立てることができる。	【主体的】 豊かな自然を生かしている真庭市の人々の暮らしについて、学習問題や予想を考えようとしている。
			自然を生かした特産物や観光地 ②	・蒜山高原のジャージー牛の飼育や観光について調べ、蒜山高原の人々が地形や気候の特徴を生かして特産物をつくったり、季節に合ったイベントを企画したりしていることを理解することができる。	【知・技】 蒜山高原の特産物や観光への取り組みについて、必要な情報を集め調べている。
			森林を生かす取り組み ①	・真庭市南部で行われている取り組みを調べることを通して、真庭市の人々が、人工林で育てたり加工したりした木材を、できるだけ無駄なく利用しようとしていることを理解することができる。	【知・技】 真庭市の人々が、人工林で育てたり加工したりした木材を、できるだけ無駄なく利用しようとしていることを理解している。
			自然を生かしたまちづくりを続けるために ②	・真庭市の人々がめざすSDGsに沿ったまちづくりの取り組みを調べ、これまでの学習を振り返り、自分たちの意見を話し合い、真庭市のめざすまちづくりを図にまとめることができる。	【思・判・表】 様々な取り組みと観光や林業などの産業の発展とを関連づけて考え、真庭市の人々の取り組みの意味を図に表している。

3 世界とつながる地いき

配当時間 全8時間
学習時期 2～3月 教科書 P.192～201

小単元「3世界とつながる地いき」のねらい

倉敷市の多文化共生のまちづくりや岡山県の国際交流への取り組みなどに着目して、地図や統計資料などをもとに調査して、まとめ、市や県の人々の諸活動と外国との関わりをとらえ、岡山県と外国とのつながりや人々の協力関係などを考え、表現することを通して、県内の特色ある国際交流に取り組む地域では、人々が協力し、多文化共生社会づくりにつとめていることを理解することができる。

小単元「3世界とつながる地いき」について

倉敷市では、多文化共生を推進し、市内に住む外国人の人が活躍できる活動に取り組んでいる。観光地を訪れたり、イベントに参加したりする外国人の人の写真などから学習問題を立て、留学生のくらしや、その人々を支える大学の取り組み、くらしのなかでの国際交流や市の取り組みを調べる展開としている。終末では、岡山県の魅力をPRするカルタづくりに取り組むことを通して、国際交流について、自分なりの考えをもてるようにする展開としている。

小単元「3世界とつながる地いき」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3学期	2月	外国人が多くくらす倉敷市 ①	・倉敷市でおこなわれる外国人の人が参加するイベントや美観地区の外国人観光客の写真を見て、倉敷市に住む外国人の人について関心をもち、学習問題を考え、予想や学習計画を立てることができる。	【主体的】 倉敷市では外国とどのようにつながっているのか、自分の問いをもち、進んで学習問題を考え、予想や学習計画を立てている。
		3月	外国人の人がかつやくできるまちづくり ②	・倉敷市に住む外国人の人の人数や、倉敷市に住む留学生の人の目的や願いを調べるとともに、留学生や働く外国人の人が増えている理由を理解することができる。	【知・技】 倉敷市に住む留学生の人の思いや、倉敷市に留学生が増えている理由を理解している。
			くらしのなかでの国際交流 ①	・倉敷市に住む外国人の人たちの生活を支えるための取り組みについて調べ、倉敷市でくらす外国人の人が活躍できる活動をめざしていることを理解することができる。	【知・技】 倉敷市がめざす多文化共生のまちづくりや外国人の人が活躍できる活動について理解している。
			市役所のはたらき ②	・岡山県や県内の市町村の国際交流や友好関係を結んでいる国を調べ、市役所の取り組みや岡山県の他国との関わりを調べ、岡山県や倉敷市と外国との関わりに関心をもち、調べることができる。	【主体的】 外国との関わりについて関心をもち、交流関係を結んでいる国との交流について意欲的に調べている。
			岡山県の特色 ②	・これまでの学習を振り返り、岡山県の特色について話し合い、その特色をPRするカルタやリーフレットなどにまとめることができる。	【思・判・表】 岡山県の特色をPRするカルタやリーフレットなどに、適切に表現している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……県内の特色ある国際交流に取り組む地域では、いろいろな人々が大学や市、県などとも協力し、多文化共生や社会づくりにつとめていることを、地図帳や統計資料などの活用を図り、理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……市の多文化共生のまちづくり、県の国際交流への取り組み、県と外国との関わり、人々の協力関係などに着目し、市や県の諸活動と外国との関わりをとらえるとともに、調べたことを表現したり、話し合ったりしている。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……自分たちの住んでいる県や市と外国とが、人やものを通してつながっていることに関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、外国人の人々のくらしに共感し、地域社会で共生する態度を育てようとしている。